第２回小田原市文化財保存活用地域計画に係る懇話会　会議概要

［日時］令和６年３月 12 日(火)14:00～16:00
［会場］小田原市役所　大会議室
［出席］
　構成員（敬称略）：
　　勝山輝男（座長）、丁野朗（副座長）、髙久舞、安藤實英、林美禰子、草山昭
　　遠藤佳子、勝俣宏一、関野次男、諏訪部澄佳、佐次安一、和田芳廣、金子明弘
　　谷口肇（オブザーバー）、川口恵実（オブザーバー）
　　（欠席）山本博文、田村直美
　事務局：湯山副部長、湯浅課長、長谷川副課長、小林副課長、大島主査、本多主査
　　鳥居主任
　委託業者（TIT）：田中、池田
［傍聴者］０名

［会議内容］
１　開会
２　議事
（１）広報委員を通じたアンケート調査の結果
座長：よろしくお願いします。皆様から忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。では議事に入ります。事務局からご説明をお願いします。
事務局：（資料説明）前回の懇話会で実施について説明した広報委員を通じたアンケート調査を実施した。11 月 24 日から 1 月 12 日までの期間で、各地区５部、250 地区、合計 1,250 部を配布し、974 件の回答を得た。回収率は 77.9%となっている。
　アンケート結果について。回答者の年齢は 60 代及び 70 代が全体の４分の３を占めている。文化財に関する取り組みとの関わりについて、「現在参加している取り組み」の質問では「地域のお祭りや年中行事への参加」が最も多く、「地域活動・ボランティア活動等への参加」がこれに続いている。「今後、参加したいと思う取り組み」の質問でも同様の傾向となっており、市民の皆さまにとって地域に無形で受け継がれてきたものへの関わりや想いが大きいということが読み取れる。小田原市の文化財の保存・活用について、「特に重要なテーマ」では、「次世代への確実な継承」を挙げられた方が最も多く、「観光振興での活用」がこれに続いている。「力を入れるべき具体的な取り組み」では、「史跡の整備や案内看板等の充実」を挙げられた方が最も多く、「ホームページやＳＮＳ等による情報発信」がこれに続いている。
　文化財に関する取り組みとの関わりの質問では、一定数が「参加しているものはない」「参加したいと思わない」と回答しているが、文化財の保存・活用についての質問では「重

要とは考えない」「特に力を入れる必要はない」の回答は非常に少なく、自ら積極的に動かないまでも保存・活用は必要という認識が共有されているものと受け取れる。

自由意見では、文化財の保存・活用や市の取り組みについて、本市の文化財をもっと広くアピールすべきというご意見をはじめ、多くのご意見を頂戴している。身近な文化財については、地域に根差した神社のお祭りや年中行事を挙げられた方が多くみられる結果となっている。

今回のアンケートの結果については今後の計画づくりにあたり参考としていくが、より幅広い層からご意見を頂く必要があると考え、今後、インターネットを利用し、同じ内容のアンケートを実施することを検討している。

座長：ありがとうございました。何かご意見があればお願いしたい。

構成員：大変なアンケート調査ありがとうございました。60～70 歳代が多いという結果だったが、活用を考えるとどこのまちでも 50 代以下の方が中心になってくるケースが多い。アンケート結果は 50 代以下と 60 代以上の２分法でいいと思う。50 代以下の方がどう考えているか分析してもらいたい。もう一つは 13 ページから後、どんと祭りとか身近に接している無形文化財については今回の資料の中に一部反映はしているということで良いか。

事務局：１点目は反映する。２点目は重複もあるが、指定を受けていないもの、身近なもの全てを出している。本日お配りしていないが、計画の本体には入らないが、指定をしていないけれど文化財になりうる「地域の宝」として、現状で 1,000 件ほどリストアップしている。地域の宝になりそうなものは、そちらにも加えてお示ししていきたい。

構成員：今日の資料を拝見して、小田原市の持つ歴史と文化の割には、登録も含め指定文化財数が少ないのが印象的だった。この制度で登録制度を活用するのは目玉になると思う。未指定のものをどれだけ掬っていけるかが大事になる。皆さんが今回の調査をどこまでスクリーニングできるか、注目しているところ。直観ですが、他の都市に比べると、細かく拾っていくと２倍位に増えるのではないか。少し記憶に留めておいてもらいたい。

事務局：今回の調査は悉皆調査まではいかないが、より良い保存と活用を図っていきたい。

構成員：今のお話に関連して、未指定、登録などの身近な文化財をうまくピックアップしているのは川崎市で、文化財顕彰制度として、市民からアップしてもらって、市が顕彰する。指定でなく顕彰するのがミソ。将来の指定・登録の際のリストとして使えるということで参照いただきたい。

座長：今の質問にあったが、今回の回答者は 60 歳以上が多く、偏った結果になっている。文化財への意識のところで、有形文化財など目につきやすいものは大切だと思うが、逆にどの文化財も大切なので、回答数が少ないからといって、価値が低い訳ではない。まとめる時に配慮が欲しい。文化財の露出する頻度などの影響が大きい。

事務局：最終的にホームページで計画の策定時にアップするが、表現など気をつける。

構成員：こちらのアンケートについて質問だが、この相手は市民全体か？祭りや行事が出て

くるが、これらに携わっている人の意見がどこまで反映されているか。

事務局：今回は自治会の組織に協力いただいて配布した。アンケートの用紙を受け取った方はなんらか関わっている方と推測する。お祭りも関わりが深いと思う。

構成員：あまりに多すぎるというのが印象で、保存会、自治会、実際にしている方が大切にして欲しいのは当然だが、今回の策定も、関わっている人がどこまで認知されているか、どう上げていくかだと思う。自治会を通してこれだけ調査されているが、そこに関わっていない人にどうにか踏み込んでもらうと、いろいろ見えてくると思う。

事務局：インターネットでのアンケートや特定の無形民俗文化財等の継承団体へのアンケートを引き続き行っていきたい。

座長：ご意見を参考にし、機会があれば、情報を集めてもらいたい。

（２）ワークショップの開催結果について

座長：ワークショップを開催されているということで事務局から報告をお願いしたい。

事務局：（資料２説明）前会の懇話会で実施について説明したワークショップについて、その後、地区と調整して２回実施した。グループワークによる意見交換として、上府中地区のまちづくり委員会の活動として、２月 22 日に実施した。また、本市の文化財に関わりの深い団体として NPO 法人小田原ガイド協会の協力のもと、２月 20 日に板橋地区でまち歩きと意見交換を実施した。挙げられたご意見は資料のとおりである。

今後も一地区で開催を予定しているほか、開催の要望があれば応じるようにしたいと考えている。

座長：ご意見ご質問があればお願いしたい。

構成員：ワークショップはこれから計画をつくるときの重点地区をつくることを睨んでしていくのかなと見ている。開催された板橋地区と上府中地区。それぞれ地域特性も違う。何を考えているかが大事だと思う。今後、各地区で開催していく計画か。

事務局：ワークショップを開いて意見を集約するようにというのが文化庁から指導があるので、まずは２回開いた。今後１回程度の開催を予定しているが、地域的な自治会や関連の組織と開催するのか、ガイド協会のような特定の目的をもった集団とするか、両にらみで検討していきたい。

構成員：戦略的に考えていくと良い。最終的に支援団体のように、どういう人がどこで、どんな仕組みを持っているか。それをどうやって起こしていくか。そこまで踏み込まないといけない。どういう人がどんな活動していて動ける人はどんな人なのか、そこまで見ていかないと次のステップが踏み出せない。文化財単位でしていくと良い。呉市では、10 地区で実施した。海軍鎮守府の旧市街と音戸の瀬戸の外側の朝鮮通信使とかは全く違う。それぞれ独立心が強くて、まったく関係ない動き方をしている。小田原市はもう少し交流があると思うが、そういう単位で捉えるのは大事だと思っている。

事務局：上府中地区については出前講座で毎年関わっており、文化財指定にもつながること

もあり、地域の関心が高い。上府中は千代廃寺という古代遺跡で特徴がある地域で、次は桜井地区を予定している。桜井は二宮尊徳先生のご生誕地で、意識が高く、いろんな講座で協力させてもらっている。市の制度を使われている地区とそうでない地区とがある。そうでない地区にどうアプローチするか悩ましい。地域のことを知りたいと思うが上手くマッチングされていない。富水も最近、話があって道祖神の話をしに行った。意識の高い地域から広げていく方が現実的と思う。小田原市の場合はガイド協会もそうだが、市民活動として地域のお宝を保全していこうとしている方がいる。総構の清掃活動、小田原用水などに特化していたり、地域でなく横展開しているところもある。両にらみしながらと思っている。小田原市の場合、市民活動が活発だと思う。地域にとらわれていない。今後展開していきたい。

座長：参加されたガイド協会の方で、何かあればお願いしたい。

構成員：活発な地域ということで、自治会連合会から協会に対して健康ウォークがあるからこの地域を歩いてほしいと毎年２回必ず連絡をもらっている。まちかど博物館巡りはガイド協会の中でも主催しているし、おだわら市民学校の講座の一コマをガイド協会が受け持っている。まちかど博物館めぐり駅前コース、東海道コース、それから早川に新しいお店ができたので掘り起こしていこうと考えている。

構成員：観光のためにも目玉になる。早川は山が良い。

座長：民俗芸能や活動に関わる方で、ワークショップの感想などあればお願いしたい。

構成員：私のところは酒匂川の東側だが、神社が３つある。合同４月の第１日曜日に鴨宮でパレードをしている。神社としている道祖神があって、道祖神祭とどんど焼きをしている。それとは別に、最近わかったが、オソソサンという地域の方５・６人で守られているものがある。祭礼はしていないが、掃除をしていて、中を見るとお酒とお塩があって、きれいにしている。昔からあの土地に住んでいる人が管理している。オソソサンとは何か？うちも、ボランティアで案内をしてほしいとお願いしている。今回のアンケートにもでてきていない。調査されて、何かわかったら教えて欲しい。

構成員：下中座という人形浄瑠璃の伝統を継承している団体である。地域に即したものにしたいと年１回稽古場で公演をしている。また今年度は総合学習で 10 時間の全部を使って下中小学校の４年生が下中座について研究し、社会科で発表した。自分達で物語をつくって下中座の人形を使って、お芝居を発表するところまでいった。その時に４年生が広報も担ってチラシづくりから動員から全部自分達の力でした。教育長さんも来られた。小さな会だが、これからも続けたい。また、いま話題の三淵邸の主・三淵忠彦さんが、芸能ごとは嫌いだったのに、人形浄瑠璃だけは大好きだったと言われていて、文楽研究家・茶谷半次郎さんとかと親しかったらしい。なので三淵邸で人形をやってみたい。あそこは小さいのでちゃんとしたお芝居はできないが、ワークショップはできるのではないか。古い建物を公開する時に声掛けいただければ明治、大正、昭和くらいのレトロな雰囲気で、このような人形をみていたとお見せできたら、おもしろい活用になると思っ

ている。

構成員：いま言われたのは非常に良いグッドプラクティスだと思う。普通は課題や何とかして欲しいという声が多くなる。他の自治体で文化財保護の仕事をしていると、自治体にお願いしたいということが出るが、ワークショップの中で良いところ、自慢したいところも含めて話ができるようにした方が良い。活動で困っている地域の方が「こうしたら良いんだ」と一つの交流になるし、それが自治体の役目だと思う。支援が大変というのもあるが、グッドプラクティスをいくつか上げられるよう取り組んで欲しい。

座長：文化財に関して勉強したいという需要は多いと思う。行政では資料館とか図書館でも企画すると、人も集まっているようなので。そういう文化財を守る味方を増やし、計画に入れていければ良いと思う。

（３）小田原市文化財保存活用地域計画案（序章～第３章）について。

座長：では次にいきたい。説明をお願いします。

事務局：（資料３説明）文化庁からは文量を絞るよう言われているが、書き出すと増えてくる。目次は概ね他都市を参照している。先行して作成している歴史的風致維持向上計画と同じ方向性を向いた計画とするよう、市の概要や歴史に関しては表現を揃えている。指定文化財の他、未指定文化財のリストを作成している。まだ集計ができていないので件数が空欄となっているが、今後、確認してもらう予定。第３章はまだ頭出しの段階となっている。

座長：本文について説明をいただいた。最初の歴史の部分が長くなるので短くした方が良いとあったが、この位で良いということか。

事務局：前回の会議の直前に文化庁とのヒアリングで指導を受けた。その後 12 月にいくつかの自治体が新たに認定を受けた。それを見てもそこまでミニマムでないかと思った。今後、文化庁とは確認しながらになるが、ここでの議論を受けて文化財保護委員会に掛けていく。３章は未記載のところもあるが、現時点ではこれがマックスと考えている。

座長：読みやすい文量だと思った。短くしないといけないというなら大変だが、これくらいが目標だというなら読んでいきやすい。

構成員：文化庁は歴史記述の部分を短くするという指導をし始めたのか。既存の認定計画はもっと長いものもあると思う。なぜ今になって短くというのか良くわからないが、市民向けにはカラフルでわかりやすい別の概要版のようなものをつくるのが一般的だと思う。分厚いものは、市民は読まない。書き足りない、抜けている点も結構あるのではないか。それを一度出してもらって、場合によっては入れ替えするのもいいかもしれない。

委託業者（TIT）：作成にかかる自治体の労力を減らすために、少なくても良いと聞いている。多いと駄目だというのではないと思う。

座長：気になったのは地形地質。６ページの上のところ。読んでいてなんだかわからない。軽石流堆積は、火山砕屑物なのか、火山ガスなのか。文化財保護委員会の時に伺うと良

い。軽石の堆積物があるということは、その上は関東ロームが乗っているということだと思うが、これではちょっと読めない。それから、16 ページに千代・永塚・高田などの低位丘陵地とあるが、ここで説明しないといけないかなと思った。酒匂川に挟まれた足柄平野の中の川と川の間を指していると思う。低位丘陵とは何か？となる。そういう繋がりが気になった。こういう細かい指摘はあると思う。

構成員：小田原城の案内で、軽石城ですと話すと皆さん興味を示される。地質、お城全体、小田原城の自然、そこがきっちりわかりやすくしないといけないと思っている。タモリさんの影響かもしれないが。石垣山一夜城も、箱根火山も溶岩流もわかりやすい地質図があると、お客さんは興味を示されると思う。

事務局：記載については確認する。

座長：全体を通して気になるところなど、他にあればお願いしたい。

構成員：福井県勝山市では、ジオパークと関連の中で計画を作っている。棲み分けをきちっとしている。固有の地質・地形とそのもとでの植生・生態があって、こういう環境のもとで生まれた経済や暮らし・文化に係る歴史社会を述べている。そういうところが普段の暮らしであるとつながる。市民の目線から見るとわかりやすく大切となる。コラムや概要版などで、市民にたくさん読んでもらえるよう取り込んでいければ、小田原らしい計画になる。

事務局：箱根地域はジオパークの認定を受けている。現在は関連した記載もないので、重要性を市民の方にわかってもらえるような設えとしていきたい。

構成員：最初か歴史の中で小田原の名前の由来を入れていただきたい。川崎は区の名前の由来も全部書いている。歴史環境をあまり厚くしないでというのが文化庁の指摘で、そこだけが厚くなってバランスが悪くなる。全体のバランスを考えるように言われている。第３章以降以降が肝になると思う。歴史文化の特徴の書き込みが進めば、前と重複するので、前がスリムになっていく。

事務局：大変参考になる。

構成員：地名、町名は立派な文化遺産で、先輩たちに小田原の町名碑を建てていただいた、文書を渡して、町名碑をたどって歩くとお客さんは喜ぶ。町名も文化遺産として残していきたい。電信柱に小字名が残っていると、まち歩きで指をさしながら歩いている。

事務局：駅周辺は歴史があるからこそこの町名が残っている。町名碑を建てて周知をはかっている。今後も周知を行っていく。

構成員：22 ページに多様な民俗とあるが、食は入れられないか？郷土食は文化庁が推している。全国の郷土食の緊急調査も始まっている。衣食住のなかで、民家もあるし、観光を含めると郷土食はどこかに入れた方が良い。

事務局：小田原も食に関する取り組みには力をいれている。盛り込むことを検討する。

構成員：資料１のアンケート調査で身近な文化財として地域のお祭りがあげられている。各地で特徴的なお祭りが行われている。若い方にどうやって継承できるかと思うが、お祭

りだと、松原神社では若い方も参加している。アンケートで出ている身近な文化財と本編にギャップがある。どの程度、取り込んでいけるのか。未指定であっても文化財になりうるものもあると思うが、これからどのように落とし込んでいくのか？

事務局：３章までは一般的な内容だが、これ以降の章で取り上げていく。公・民の役割分担もしていく。その中で地域に伝わるお祭りの継承についても、文化財課の視点として持っていないといけないので計画の中で検討していく。

構成員：これから取り上げられると思うが、無形文化財の場合、学校との関わりがとても大事で、下中座の活動には、下中小学校、橘中学校、県立二宮高校、昭和女子大学があって、小学校から大学まで民俗芸能を伝えて、後継者育成の事業をしている。他もたくさんしていると思うので、学校教育で地域の文化をどう伝えるのか。努力しているところを取り上げて欲しい。

事務局：個人的な視点だが、成功事例は、地域に伝わる民俗芸能でありつつ、教育と連携して育成の取組をされている。計画に盛り込んでいく。

座長：文化財活用で学校は重要。教育委員会の学校関係の方が出られていないが、関わりがあった方が良いのではないかと思う。

構成員：どう継承して、未来に活かすかという視点では重要なポイントだ。友人が、京都で能楽堂を経営していて、日本の各地の子どもたちに能を教えるということをやっている。海外にも反響があって、インバウンドが増えている。シンガポール、香港、ヨーロッパなど、知識はなくても一から教えて、ブーメランで返ってくる。観光という観点でも重要で、観光庁も注目している。戦略を考えた活用が重要。食に関して、八王子は全学校で、給食として 100 年フードを全校生徒に出している。子どもの頃から、100 年フードを、イベントではなく、普段から食べている、とても大事で、理屈ではなく、これが地域の味と教えていて、それが文化の継承になる。未指定のこうした文化資源は重要。食も入ってくるし、生業、職人の匠の技をどう入れていくか。ぜひ入れて欲しい。かつて小田原市の広報で 20 人位の「技人（わざびと）」を紹介していた。ああいったものを、小田原で継承していく仕組みをつくるのも計画の中で大切だ。

構成員：栢山の田植歌は、御殿場の田植歌が伝わってきたが、御殿場ではもう歌われていない。学校教育として報徳小学校と桜井小学校で４・５年生が田植えをする際に歌っていたが、今は途絶えている。90 代の先輩たちが、若くて東京から来て耕作放棄された田を残そうとしてる方たちと田植歌を一緒にやっている。稽古に文化財課の職員も来て、なんとかつなごうとしている。ほそぼそでよいから残してほしい。全国的にも機械化により絶滅の危機。栢山に残っているのは貴重。唱歌になってもかまわないので残してほしい。小学校でも唱歌なら歌えるので、形状が少しでも残っていれば蘇らせることができる。90 代の先輩たちも、そういう活動をしていることを計画に載せてもらえれば、後押しになるのでお願いしたい。

事務局：栢山の田植歌は、17 自治体が加盟する報徳サミットや、14 自治体が加盟していた

嚶鳴(おうめい)フォーラムが、小田原市で開催される際に、どちらも二宮尊徳の顕彰がテーマであったので、地元の小学校に繋いだことがあった。しばらく続いていたようだが、どこかのタイミングで繋がりが切れたようだ。民俗芸能に限った話ではないが、後継者育成は行政としても危機感をもっており、「おだわら市民学校」で後継者育成をやろうという話になった。民俗芸能については、高久先生にもお願いしたところである。こうした仕組みを作っても、危機感を持つ職員が育たないと、学校や地域にお願いしても続かない。繋ぎの部分については、行政の出番かと思う。

事務局：短い時間のなかでご覧いただいたが、次回、来年度に入ってから間があくので、その間に未指定文化財リストも含めて、ご意見を頂戴して、修正、座長とご相談して表現を考えたい。ご協力をお願いしたい。

座長：１章から３章に関して、続きがでてくると、ご意見も出てくると思うので、その際には修正してもらいたい。

構成員：今日は３章までで、次は６章までか。一番大事なのは第９章で、ここから逆走する考えも重要だ。地域の文化資源を誰が保全し、誰がどのように活用をはかっていくかを計画に反映しなければいけない、アンケート、ワークショップも逆算してやることになると思うが、それを考慮して欲しい。４章以降のスケジュールはどう考えているのか？

事務局：行政でいう実行計画になるのでしっかり検討したい。懇話会は来年度３回の開催を予定している。７月、11 月、２月位。最初の回に６章までということにしたいが、作業はできるだけ前倒しで行う。３回の会議で作って、最後の年度は確認作業、市議会等への報告にも時間を取られるので、来年度の一年間で作り上げるというイメージで考えている。

構成員：令和７年７月に認定を予定しているのか？

事務局：令和７年 12 月の認定を予定している。令和７年度にも修正、反映はできる。

（４）その他

座長：次回は、できるだけ早く資料を配布してもらいたい。もう少し時間をいただきたい。

事務局：次回の日程調整は来年度になると思うがよろしくお願いします。

座長：みなさんいろいろな意見ありがとうございました。これで第２回懇話会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

３　閉会

以上